

1. 日 時 1998年10月6日（火）10:30～11:15

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 藤家委員長代理、遠藤委員、依田委員、木元委員
（事務局等）科学技術庁
原子力局
原子力調査室 森本室長、板倉、村上、
核融合開発室 中村室長、鈴木
吉舖専門委員

4. 議 題

- （1）第17回IAEA主催核融合エネルギー会議について
- （2）ITERに関する最近の動向について
- （3）原子力委員会専門委員の変更について
- （4）その他

5. 配布資料

- 資料1 第17回IAEA主催核融合エネルギー会議について
- 資料2 ITERに関する最近の動向について
- 資料3 原子力委員会専門委員の変更について（案）
- 資料4 第54回原子力委員会定例会議議事録（案）

6. 審議事項

- （1）第17回IAEA主催核融合エネルギー会議について

標記の件について、事務局より資料1に基づき説明があった。これに対し、

・今回はカナダは参加しないのか。また、途上国の参加はないのか。

（核融合室）カナダは参加する予定。途上国ではインドが参加する。

等の質疑応答及び委員の意見があった。

- （2）ITERに関する最近の動向について

標記の件について、事務局より資料2に基づき説明があった。これに対し、

・ITERについては、もともと米国、旧ソ連（ロシア）が提案したものだが、現在は日本、EU、ロシアが継続を主張し、米国は難色を示しているようなおかしな状況になっている。米国の状況をしっかり把握して、シナリオを作る必要がある。今後はEUとの議論に重点を置いた方が良いのではないか。

・炉工学の観点から、有望なのはトカマク型。しかしながら、米国が希望している国際協力における新たな合意としては、閉じ込め概念を重視したもの

なると思われる。

- ・資料の「3. 日本の対応」において「米国の意図を確かめる必要がある」となっているが、米国の意図は既に明確ではないか。
- ・このような状況を踏まえ、核融合会議において、日本のとるべき方向性を検討していくことが必要。
- ・核融合はITERだけではない。核融合研究開発全般に及ぼす影響も含め、日本の考え方を検討すべきである。
- ・ITERを誘致したいとの意向を表明している地元にも現状を十分説明すべきではないか。

(核融合室)米国の意図をクラリファイの上、核融合会議に今後の対応について検討をお願いしたい。また、ITERに関する状況は適宜地元伝えていく。等の質疑応答及び委員の意見があった。

(3) 議事録の確認

事務局作成の資料4第54回原子力委員会定例会議議事録(案)及び第53回原子力委員会臨時会議議事録(案)が了承された。

(4) 原子力委員会専門委員の変更について

標記の件については、人事案件のため非公開で行うこととした上で、事務局より資料3に基づき説明がなされ、了承された。